教科・科目（単位数）	農業・課題研究（１）	学年	２年
使用教科書・副教材等	なし	集団	22ＨＲ

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。

（２）農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

（３）課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	・課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。課題解決に向けて合理的に計画し、調査・研究・実験を通して、各科目で学習した知識と技術を再認識し、その技術を適切に活用している。
②思考・判断・表現	・農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・農業に関する課題について興味・関心を持ち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。

評価方法	調査、実験、分析、まとめ、発表の内容および取り組み 知識・技術の点検、確認（レポート、資格取得　等） 記述の点検、確認（レポート、製作物への取り組み　等） 学習状況の観察、確認（レポート、製作物のへの取り組み、資格取得への取り組み　等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ①	②	③
4	研究課題設定 研究の開始	・個人またはグループで課題を設定し、指導担当者より提示された研究課題の計画を立案、実行する。	○	○	○
		・調査、研究、実験の記録 ・作品製作、職業資格の取得、学校農業クラブ活動(プロジェクト活動等)	○	○	○
5 6 7	研究 １学期中間報告 １学期期末報告	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作) ・産業現場等における実習 ・職業資格の取得(フラーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定) ・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動　等)	○	○	○
9 10 11 12	研究 ２学期中間報告 中間報告発表 ２学期期末報告	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作) ・職業資格の取得(フラーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定) ・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動　等)	○	○	○
1 2	研究 研究報告会 年間報告書提出	・調査、研究、実験の記録 ・作品製作(コンテストやコンクールへの応募、住宅庭園の製図制作) ・職業資格の取得(フラーデザイン、園芸装飾、造園、測量、農業技術検定) ・学校農業クラブ活動(プロジェクト活動　等) ・プレゼンテーション作成 ・課題研究報告書提出	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・植物バイオテクノロジー（３）	学年	２年
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー　　（実教出版）	集団	22ＨＲ・フラワー

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物バイオテクノロジーの利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）植物バイオテクノロジーについて体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

（２）植物バイオテクノロジーに関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。

（３）植物バイオテクノロジーについて特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	・植物体の持つ分化全能性などの特性やバイオテクノロジーの技術的特質,無菌操作から培養,順化等の一連の知識と技術，植物遺伝情報の利用等の仕組みなど，植物バイオテクノロジーに関する知識と技術を体系的・系統的に理解し，身に付けている。
②思考・判断・表現	・農業の各分野における植物バイオテクノロジーの利用に関する 課題を発見し，農業への実践事例や植物バイオテクノロジーが果たす社会的な意義と役割 などを踏まえるとともに，環境への配慮や法令遵守など，職業人に求められる倫理観をもって，科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・植物バイオテクノロジーの学習を通して，農産物等の品質改善 や品種改良，生産性の向上を図るとともに，安全で安心できる農産物の生産や生活環境の 創造を目指し，植物バイオテクノロジーを活用した農業及び関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

月	単　元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	植物バイオテクノロジーの意義と役割 ・生物の機能とバイオテクノロジー ・バイオテクノロジーの歴史とあゆみ	・バイオテクノロジーの意味を理解する。	○	○	○
		・バイオクノロジーの歴史を知る。	○	○	○
6 7	植物バイオテクノロジーの基礎 ・植物のからだ ・植物の細胞分裂と分化	・植物のからだのなりたちを知る。植物細胞の構造と機能を理解する。	○	○	○
		・植物の分化全能性と組織培養の原理を理解する。分化,脱分化に及ぼす植物ホルモンの役割を知る。	○	○	○

9 10	植物組織培養の基礎 ・組織培養とは何だろう ・組織培養の方法	・組織培養と,その方法を理解する。組織培養の方法について理解する。	○	○	○
		・組織培養の手順を理解する。培地成分の重要性を理解し,培地の調整方法を学ぶ。	○	○	○
11 12	植物組織培養の基礎 ・組織培養の方法 ・組織培養の施設と機器・器具	・無菌操作について学ぶ。培養組織や植物体の生育に必要な条件を理解する。	○	○	○
		・組織培養の施設と機器・器具のあらましを知る。組織培養の機器・器具の取り扱い方に習熟する。	○	○	○
1 2	植物組織培養の実際 ・モウセンゴケの継代培養 ・キクの花弁培養 ・ユリの鱗片培養 ・トルコキキョウの葉片培養 ・サクラソウ（プリムラ）の器官培養 ・シランの無菌播種と培養	・組織片の培養の特徴や目的について理解する。 ・いろいろな器官や組織から,植物体が再生できることを知る。	○	○	○
		・ラン類の生育に必要なラン菌の働きと無菌播種との関わりを理解する。 ・無菌播種法と共生培養法の技術を習得する。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・生物活用（３単位）	学年	２年
使用教科書・副教材等	生物活用　　（実教出版）	集団	２２HR・フラワー

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物バイオテクノロジーの利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）生物活用について，体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に 付けるようにする。

（２）生物活用に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的 かつ創造的に解決する力を養う。

（３）生物活用について，生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学 び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・園芸や社会動物が人の健康にもたらす効用の体験や生物を活用した交流活動などのプロジェクト学習を通して,緑のある環境・園芸・社会動物の健康効 果と交流対象となる人の発達段階や健康についての基礎的な知識と技術を体系的・系統的に理解し，身に付けている。
② 思考・判断・表現	・地域に暮らす人々の健康に関する課題を発見し，緑のある環境や園芸，社会動物とのふれあいや飼育が健康増進につながるよう科学的な根拠に基づいて交流活動を計画し，職業人としての倫理観をもって安全で安心して参加できる交流活動に発展させ，生物活用に関する課題について創造的に科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・園芸や社会動物を活用する学習を通して,地域の人々の生活の質の向上を目指し，健康増進を付加した農業の振興や社会貢献に,自ら課題解決に向けた意識をもって主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ①	②	③
4 5	生物活用の意義と役割 ・生物活用の意義と役割	・植物とふれ合い、世話をすることによって、生物を福祉的に、あるいは活用して、思いやることの意義と役割を学ぶ。	○	○	○
	・植物･園芸と人間生活	・生活における植物および園芸の多面的な利用について理解する。植物を扱うさいの留意点を理解する。	○	○	○
6 7 9 10 11 12	園芸作物の栽培と活用 （草花の栽培と活用） ・室内園芸装飾 ・フラワーデザイン	・園芸装飾、フラワー装飾などの基本を身につける。 （園芸装飾技能士（室内園芸装飾）、フラワー装飾技能士、色彩検定３級程度） ・草花栽培(キク)	○	○	○
	園芸作物の栽培と活用 ・草花の栽培と活用 ・コンテナ栽培 ・ハンギングバスケットの活用	・草花の栽培方法を身につける。	○	○	○
		・植物のさまざまな利用方法を身につける。	○	○	○
		・コンテナ栽培等の基本を身につける。	○	○	○
1 2	園芸作物の栽培と活用 ・花壇の活用と管理 ・バリアフリーとユニバーサルデザイン	・花壇装飾などの基本を身につける。 ・デザインの基本を理解する。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・総合実習（２単位）	学年	２年
使用教科書・副教材等	草花(実教出版)	集団	２２HR・ガーデン

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、植物バイオテクノロジーの利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に 付けるようにする。

（２）農業に関する総合的な課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合 理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び，農 業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・農業の各分野に関する総合的な知識と技術を体系的・系統的に 理解し,身に付けている。
② 思考・判断・表現	・農業の各分野における総合的な技術の習熟と,各科目における知識の確認と検証を通して総合的な技術に関する課題を発見し,環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって,農業各分野の専門的な内容について,科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	・農業の各分野における自らの職業生活について考えながら,農業の総合的な知識や技術,経営や管理について企画力や管理能力,活用技術などを学ぶ中で,農業の各分野への展開と活用を目指し,主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	③	④
4	平板測量の基礎	測量の歴史と器具の取り扱い。 平板測量の設置	○		
5	骨組み測量と誤差修正	校内の平板測量と誤差修正 花壇用花苗の挿し木（芝桜）		○	
6	細部測量と校内平面図	校内平面図の作成・放射法の習得 花壇用平面図の作成		○	
7	平面図の活用	花壇のデザイン	○	○	○
9	水準測量の基礎 秋播き一年草の栽培	水準測量の基本知識と器具の取り扱い チルチングレベルの設置 パンジービオラの栽培と花壇の作成	○	 ○	
１０	高低差と田方平野	田方平野の歴史と河川について学ぶ 学校周辺の高低差を計測する	○	 ○	 ○
１１	横断図面の作成 秋に適した花壇の作成	水準測量の応用（昇降式野帳） 花壇のデザインと作成		○	

１２	水準測量の応用 春用花壇の作成	器高式野帳の活用 球根の生理生態と活用		○	○
1	高さの計測（角測量）	トランシットの基本的な知識と活用	○		
2	トランシットの活用	角度と距離 花壇の管理		○	○

教科・科目（単位数）	農業・草花（２）	学年	２年
使用教科書・副教材等	草花　　（実教出版）	集団	２２ＨＲ・ガーデン

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）草花について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

（２）草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。

（３）草花について特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	・草花の生理・生態や生育環境などの草花生産に必要な知識と技術,草花生産の計画,管理,評価などの草花経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し,身に付けている。
②思考・判断・表現	・草花の生産や経営に関して生産技術や生産工程,経費や流 通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し,地域の草花経営の実践事例や草花 生産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに,環境への配慮や法令遵守など,職業人に求められる倫理観をもって,科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	・草花の生産と経営の学習を通して，草花生産が人々の暮らしを 豊かにする素材を提供し,生活環境を創造するという社会的な役割を担っていることを理解し,品質と生産性の向上を図るとともに,安全で安心できる草花の生産と経営を目指し，　その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

月	単　元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5	生活と草花の利用 ・草花の多面的利用 ・園芸デザイン	・草花がどのように利用されているのか関心を持つ。 ・切り花･鉢もの･花壇用草花の用途を知る。 ・生活や地域における草花の多面的な利用について理解する。	○	○	○
6 7		・草花の装飾的特性を理解する。 ・草花の装飾的特性をいかした利用方法を習得する。 ・園芸装飾（室内園芸装飾３級程度）について学ぶ。	○	○	○
9	草花生産と消費の動向 ・草花園芸の特徴	・草花生産と経営の特徴を理解する。 ・草花にはどのような種類があるか学ぶ。 ・草花の生産形態の特徴を理解する。	○	○	○

10 11	・草花生産と消費の動向	・草花の生産と消費の動きを知る。 ・草花の流通の仕組みを理解する。 ・切り花の輸出入の動きを知る。	○	○	○
12	生活と草花の利用 ・園芸デザイン	・草花の装飾的特性をいかした利用方法を習得する。 （花壇デザイン･コンテナガーデン・生け花を学ぶ。）	○	○	○
1	草花の特徴と栽培技術 ・草花の生育と環境	・草花の生育のしかたや,形態について学ぶ。 ・草花の生育と環境要因との関係について学ぶ。 ・草花の生育･開花の調節方法について学ぶ。	○	○	○
2	・品種改良と繁殖	・品種の重要性と品種改良の目的を理解する。 ・品種改良と繁殖のさまざまな方法を知る。	○	○	○
	・草花の生育と栽培技術	・草花の生育環境と適切な栽培技術を理解する。 ・草花の品質と草姿を知り,その調節法を学ぶ。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・草花（４）	学年	２年
使用教科書・副教材等	草花　　（実教出版）	集団	２２ＨＲ・フラワー

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）草花について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

（２）草花に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的にかつ創造的に解決する力を養う。

（３）草花について特質を理解し、農業の各分野で理解できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	・草花の形態的特徴や生理的特性について理解している。 ・観察や実験・実習を通して科学的かつ創造的に学習を進め、草花の応用を図る実践力を身に付けている。
②思考・判断・表現	・草花について性質や特徴を考察し、適切に取り扱う判断力を身に付けている。 ・草花を生活に取り入れることを考察し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	・実習における責任や協働の経験を通して意欲を高めようとしている。 ・草花の種類やその特徴に関心をもち主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・知識・技術の点検、確認、分析（定期試験、小テスト、実習プリント、レポート　等） ・記述の点検、確認、分析（実習プリント、レポート、グループワーク　等） ・学習状況の観察、確認（実習レポート、提出物等への取り組み状況、授業への取り組み　等）

月	単　元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	草花生産と消費の動向 （１）草花園芸の特徴 （２）春まき草花の利用	草花生産形態と経営の特徴を他の農作物と比べて理解する。		○	
		春まき草花の生産と流通を理解する。			
5	（３）草花生産と消費の動向 生活と草花の利用 （１）繁殖方法の実践	草花の生産と流通のしくみを理解し消費の動きから輸出入の状況を把握する。	○		
		春まき草花の花壇苗や鉢ものを利用しながら繁殖の様々な方法を実践する。			○
6	（２）草花の多面的利用 （３）園芸デザイン 草花の特徴と栽培技術 （１）草花栽培の実践	草花が生活の中でどのように利用されているか関心を持ち、多面的な利用について理解する。	○		
		草花の装飾的特性を理解し、特性を生かした利用方法を習得する。		○	
		春まき草花の花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し実践する。			○

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
7	（2）草花の生育と環境	草花の生育と環境要因との関係を学び、開花の調整方法を理解する			
9	（3）品種改良と繁殖 （4）秋まき草花の利用	品種の重要性と品種改良の目的を理解し、品種改良の様々な方法を学ぶ。	○		
		秋まき草花を利用しながら花壇苗や鉢ものの生産、流通を理解する。		○	
10	（5）草花の生育と栽培技術 （6）草花栽培の実践	草花の生育環境と適切な栽培技術を理解し、品質や草姿の調整を実践する。	○		
		秋まき草花を利用し、花壇苗や鉢ものの栽培管理方法を理解し実践する。			○
11	（7）生産施設と栽培環境の調節 （8）草花栽培の実践	温室やハウス、資材の特徴を理解し、施設・設備を用いた栽培技術を習得する。	○		
		秋まき草花を利用しながら花壇苗や鉢ものの生産、出荷、販売方法を理解し、実践する。		○	
12	切り花生産 （1）切り花生産の特色	切り花生産の経営と栽培の特徴を理解し、品質管理技術を実践する。			○
1	（2）切り花の栽培の特徴 （3）一・二年草の切り花	切り花の園芸的分類にしたがった栽培方法を理解する。			
		一・二年草の切り花の種類と特性を理解し、栽培に必要な基礎的技術を習得する。		○	
2	鉢もの生産 （1）鉢もの生産の経営的特色 （2）鉢物の資材と商品化技術	鉢ものの経営的特色・栽培管理の特色を理解する。	○		
		鉢物に必要な資材について理解し、仕立て方や商品価値を高める技術を習得する。			○

教科・科目（単位数）	農業・造園計画（3）	学年	２　年
使用教科書・副教材等	造園計画（海文堂出版）	集団	２２ＨＲ・ガーデンコース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、造園計画の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）造園計画について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。

（２）造園計画に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

（３）造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	造園計画について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術が身に付いている。
②　思考・判断・表現	造園計画に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身についている。
③　主体的に学習に取り組む態度	造園計画について目的や環境に応じた造園空間の創造につながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	観点別評価に準じる。授業出席ならびに，授業の取り組み，姿勢や創意工夫，探究心を考慮する。作品「個人住宅庭園設計」および「ミニチュア石組み」の評価を行う。また、庭園見学のレポートも加味する。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	造園計画の意義と緑地環境の役割	生活と緑地環境。	○		○
		造園計画と造園空間。	○		○
		個人住宅庭園設計：造園製図の基本１。	○		○
5	環境と造園様式１	造園史：古代(有史以前)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：造園製図の基本２。	○		○
		造園製図の基本：文字,線,用具類。	○	○	○
6	環境と造園様式２	造園史：古代(飛鳥・奈良・平安期)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：門廻りの設計。	○	○	○
		造園製図の基本：文字,線,用具類。	○	○	○
7	環境と造園様式３	造園史：中世(鎌倉期)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：駐車場の設計。	○	○	○

9	環境と造園様式４	造園史：中世(室町前期)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：駐車場の設計。	○	○	○
10	環境と造園様式５	造園史：中世(室町後期)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：アプローチの設計。	○	○	○
		造園史：庭園見学およびミニチュア石組の製作。	○	○	○
11	環境と造園様式６	造園史：中世(室町末期)の造園。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計。	○	○	○
		学校祭に向けての作品作り。	○	○	○
12	環境と造園様式７	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計(ウッドデッキ)。	○	○	○
		造園製図の基礎：製図用紙およびトレース。	○	○	○
1	環境と造園様式８	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。	○		○
		個人住宅庭園設計：メインガーデンの設計(テラス,濡れ縁)。	○	○	○
		造園製図の基礎：着彩具。	○	○	○
2	環境と造園様式９	造園：安土桃山時代の庭園(茶庭)。	○		○
		個人住宅庭園設計：日本庭園の設計(沓脱ぎ石,飛石)。	○	○	○
		造園製図の基礎：着彩具。	○	○	○

教科・科目（単位数）	農業・造園施工管理（3）	学年	2　年
使用教科書・副教材等	造園施工管理（東京電機大学出版）	集団	22ＨＲガーデンデザインコース

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、造園施工管理の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)造園施工管理について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。

(2)造園施工管理に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3)造園施工管理について目的や環境に応じた合理的な施工と維持管理につながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①　知識・技術	緑地環境や造園空間の機能と造園が果たす社会的な役割を理解する。また,造園材料の特質と合理的な施工や管理ができる技術を身につける。
②　思考・判断・表現	造園施工管理の意義を理解することにより,持続可能な循環型社会に適応できる資質や合理的,創造的に解決する力を養う。
③　主体的に学習に取り組む態度	造園施工を取り巻く環境や意義,特色と役割を理解し,緑地環境における体験的,継続的な観察・実験・調査・記録等の学習を主体的,創造的に取り組み,協働を育む。
評価方法	観点別評価に準じる。授業出席ならびに,授業の取り組み,姿勢や創意工夫,探究心を考慮する。課題樹木レポートや,樹木の正しい剪定手法の理解度および,竹垣・ロープワークや造園施工材料を使用しての創意工夫などでの作品をとおして評価を行う。

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	施設施工管理１ 垣の施工	樹木と剪定手法について１(概論)。	○		○
		実習１　生垣の切り詰め剪定１。	○	○	○
		剪定道具および脚立の使用方法。 安全教育。	○	○	○
5	施設施工管理２ 垣の施工	ロープワーク１(うの首結び,男結び)。	○		○
		実習２　生垣の切り詰め剪定２。	○		○
		樹木と剪定手法について２(樹木の樹形仕立てについて)。	○	○	○
6	施設施工管理３ 垣の施工	樹木と剪定手法について３(樹木の生長周期から考える)。	○		○
		実習３　自然風剪定(透かし剪定)。	○	○	○
		ロープワーク２(男結び,南京結び)。	○		○
7	施設施工管理４ 垣の施工	実習４　自然風剪定(透かし剪定)。	○	○	○
		樹木と剪定手法について４(花木と花芽分化期から考える)。	○	○	○
		夏季実習(外部講師依頼)。	○		○

9	造園材料の種類と特性 木材・竹材	性状,特性による分類。	○		○
		素材・規格・用途について。	○		○
		ロープワーク３(男結び,石畳結び)。			
10	庭園施工工１ 四つ目垣	造園材料の種類と特性・特徴。	○		○
		造園工具の使用方法と注意。	○	○	○
		ロープワーク４(男結び,掻きつけ)。	○	○	○
	石の施工１	ミニチュア石組の制作（枯山水）			
11	庭園施工工２ 四つ目垣	四つ目垣の制作１。	○		○
		四つ目垣の制作２　美と用。	○	○	○
	石の施工２	ミニチュア石組の制作(枯山水)。	○	○	○
12	庭園施工工３	小庭園の作庭。	○		○
	造園材料の種類と特性１	石材(岩石の分類)。	○		○
		層理と節理。	○		○
1	造園材料の種類と特性２	庭石の産地。	○		○
		小庭園での石材の施工。	○	○	○
		飛石の施工	○	○	○
2	施設施工管理５ 垣の施工	樹木医学を根拠とする自然風剪定手法。	○		○
		枝下ろし剪定。	○		○
		樹木の腐朽。	○		○